

令和7年度第7回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和7年11月15日（土） 8時30分～16時30分

テーマ：鬼怒川・常陸の大河の物語ー自然と人と鬼怒川とー

場 所：鬼怒川の特徴的な自然地形と人の手によって改変された流路跡（詳細は下記）

講 師：矢野徳也先生（筑波山地域ジオパーク認定ジオガイド）

内 容：鬼怒川は栃木県鬼怒沼に源を発し、利根川に合流して太平洋に注ぐ茨城県を代表する河川です。江戸時代初期に鬼怒川と利根川が接続するまでは、霞ヶ浦とともに関東平野東部の水系を形づくっていました。また、鬼怒川は下流部で小貝川と合流していましたが、江戸時代の初期に鬼怒川の最下流部を小貝川と分離し、人工的に開削した水路で利根川に接続させています。

この観察会では鬼怒川の自然地形と人の手によって改変された流れの跡をたどって、鬼怒川の変遷を深く探ってみました。

参加者：25名

担当職員：5名

パートナー：7名

結 果：霞ヶ浦環境科学センターのバスに参加者全員乗車し、1日かけて、鬼怒川と鬼怒川に関係する自然や流路の変遷について学習しました。矢野先生の用意周到な準備のもと、1日で効率よく鬼怒川の地形やの流路の変遷の歴史を学習することができました。

この観察会は、一昨年の桜川観察会、昨年の利根川観察会に続き長時間にわたるものでしたが、参加者全員元気で無事に観察会を終えることができ、参加者の満足度もたいへん高いものとなりました。矢野先生、充実した観察会を指導していただき、ありがとうございました。また、この観察会では、国土交通省下館河川事務所、常総市役所、ほっとランド・きぬ、常総市貴工業(株)には特段のご協力をいただきました。ありがとうございました。

以下に矢野先生が作成してくださった観察資料の中から、観察地の解説に関する文章を抜粋して掲載します。

鬼怒川・常陸の大河の物語 ―自然と人と鬼怒川と―

矢野徳也（筑波山地域ジオパーク推進協議会 認定ジオガイド）

- ①霞ヶ浦環境科学センター
- ②清瀧香取両神社（守谷市板戸井）
- ③伊奈橋付近（つくばみらい市寺畑）
- ④常総市役所（常総市水海道諏訪町）－休憩－
- ⑤小山戸砂丘（常総市小山戸町）
- ⑥上三坂公民館付近（常総市三坂町）
- ⑦若宮戸砂丘（常総市若宮戸）
- ⑧ほっとランド・きぬ（下妻市鬼怒）－昼食－
- ⑨砂沼（下妻市下妻）
- ⑩川西地区運動広場付近（八千代町新井）
- ⑪関本の三所線跡（筑西市関本肥土）
- ⑫新川島橋付近（筑西市下川島）

道の駅しもつま －休憩－

土浦駅 経由 環境環境科学センター

各地点のみどころ

②清瀧香取神社（きよたきかとりじんじゃ）

・鬼怒川から南に延びる谷津と台地を開削して常陸川（現利根川）に接続。つくばみらい市寺畑で締め切り小貝川と分離した（1629 年）。開削した深い掘割には現在赤い鉄橋の滝下橋が架かっている。

・鬼怒川の新流路は舟運で賑わい、河岸が設けられ宿屋があったという。鳥居の一つが川に向いているのは川岸から参道が設けられていたため。

③伊奈橋（いなばし）

・かつて鬼怒川が小貝川と合流していた場所。1629（寛永6）年に戸井田と羽根野の間の台地を掘削し鬼怒川は利根川に直接合流させた。

・旧鬼怒川流路は埋め立てられて西の台団地が造成された。締切部にある築堤記念碑が静かに物語る。

④常総市役所（じょうそうしやくしょ）

・2015 年鬼怒川水害は浸水面積が 4,000ha に及び、水海道の市街地も大きく浸水した。プレートにその被害を偲ぶ。

・浸水の回復には10日を要し、死亡2名、重軽傷 29 名、救助 4,300 人、全壊大規模半壊 1,000 棟を越えるという大規模災害となった

⑤小山戸砂丘（こやまどさきゅう）

・鬼怒川曲流部の内側（東側）に生じた河畔砂丘。河川敷の砂が冬の北西寄りの季節風で吹き上げられて堆積した。河床の砂より細粒の堆積物。

・河川改修で一部の地形が失われたが、おおむね保存されている。河川側が緩傾斜で後背湿地側が急傾斜なのが、風成の河畔砂丘の特徴。

⑥上三坂公民館（かみみさかこうみんかん）

・2015 年9月 10 日に発生した堤防決壊場所。決壊の碑（災害碑）が建てられている。東側に比較的新しい建物が見られるのは、洪水による被害家屋が復旧したもの。

・2015 年9月 10～11 日の豪雨は鬼怒川流域を中心に 24 時間に 551mm

（日光市五十里）を記録するなど累積雨量は600mm、当時16地点で観測史上最多の 24 時間雨量を記録した。

- ・多量の水が鬼怒川に流下し、中三坂の決壊、若宮戸ほか 4 か所の越流を生じた。中三坂では決壊場所から多量の土砂を伴って流出。最大 69cm の厚さに堆積した（佐藤ほか、2017）。石下の市街地を作る微高地なども同様の成因で形成されている。

⑦若宮戸砂丘（わかみやどさきゅう）

- ・鬼怒川最大の河畔砂丘で、「十一面山」として親しまれている。砂丘上に建てられた戦没者慰霊塔が目立つ。
- ・かつては3列の砂丘列があり、周囲の台地（標高 22～25m）より高い 32.25mの標高があった。砂取りにより砂丘の多くが失われた。
- ・砂丘にはアカマツが主だったが減少。ハマエンドウなどの特異な植物も見られた。

⑧ほっとランド・きぬ（ほっとらんどきぬ）

- ・平安時代末にはすでに鎌庭の曲流部には流路があった。中世には小貝川と分離され鬼怒川河道となっていた。
- ・曲流部が水害の原因になっていたため、1935（昭和10）年に直線水路が掘削されて、旧流路が水田化。現在、一部は住宅や施設となっている。

⑨砂沼（さぬま）

- ・鬼怒川が運ぶ多量の土砂で小河川の出口がふさがれ形成した湖沼群の一つ。同様なものに牛久沼があり、すでに干拓等で水面を失った騰波ノ江、大宝沼、山川沼、飯沼などがあった。
- ・江戸時代に農業水源として溜池化。栃木県二宮町上江連から取水する江連用水を砂沼に接続、下流の八間用水への用水ともなり、農地を潤す。

⑩川西地区運動広場（かわにしちくうんどうひろば）

- ・畑に挟まれた細長い水田が続く。これが奈良時代までの鬼怒川流路跡
- ・768（神護景雲2）年、下総国から川を新しく掘り洪水を防ぎたいと願

い出たが7年たってもできていない。常陸国は反対しているが、また洪水が起きると荒廃する、と訴えた。太政官は両国に命じて毛野川（けのかわ、現鬼怒川）を掘らせた。水路は変わったが国境は旧川で変えないこととした（続日本紀）。

- ・旧流路では水田下の砂利が採取されている。採取は短期間に終わり、埋め戻されて水田に戻される。大きな釣堀は採掘跡の窪地を活用したもの。

⑪ 関本の三所線跡（せきもとのさんじょせんあと）

- ・鬼怒川河川敷の砂利を運搬するために 1923（大正 12）年に敷設。1927（昭和 2）年に常総鉄道鬼怒川線として太田郷～三所間で旅客扱いを開始。筑波常総鉄道（現在の関東鉄道）を経て 1957(昭和 32)年関本～三所を廃止して貨物線化。1964（昭和 39）年廃止。関東大震災後は復興資材としての砂利の価値が高まり、各地に砂利運搬線が敷設された。

- ・鬼怒川の河川敷から採取した砂利を貨車に積んで輸送した。後にトラック輸送が主となり鉄道は廃止された。水戸線川島駅からも河川敷の砂利を運搬する貨物線が戦前に敷設され、1970 年代には水戸線から電気機関車が入線して輸送していた。日本コンクリート川島工場や川島セメントヤードへの専用線としてその後も使用されたが1997 年に廃止された。

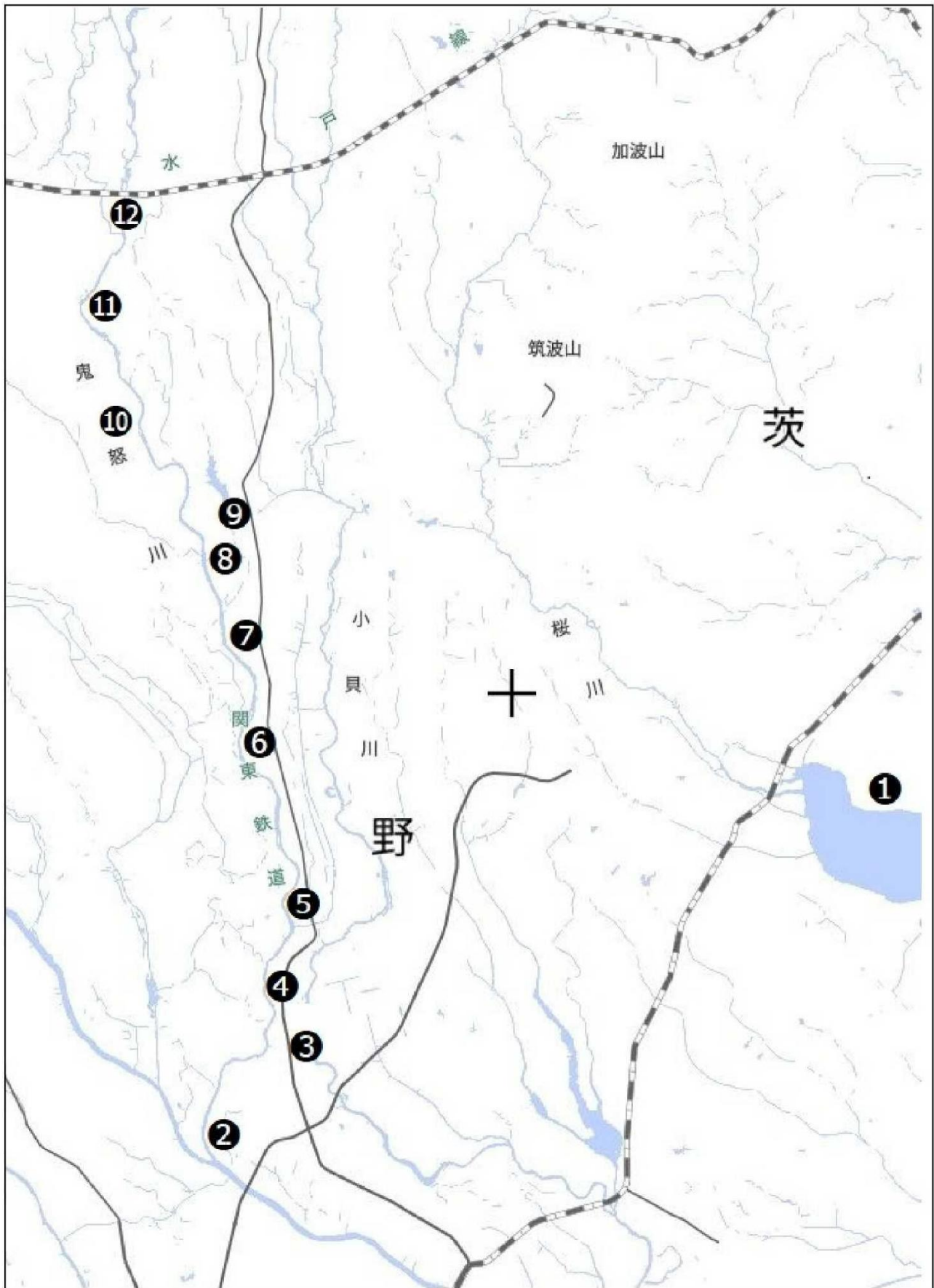
⑫ 新川島橋（しんかわしまばし）

- ・蛇行河川だった鬼怒川も関城より上流では扇状地の性質を見せる。河床はれきが主体となり、河道が分流併合を繰り返す「網状河川」となる。

- ・れきは握りこぶし大より大きなものが目立ち、長距離を移動してくるため丸みのある形状で硬質のことが多い。砂利資源としては優秀。ただし、河床で砂利を採取すると河床の深掘れが起こり、橋梁などの構造物に悪影響があり、現在では採取が禁じられている。

- ・いずれも、上流の日光産地、足尾山地を起源とする岩石で、日光男体山や、女峰火山群の火山岩を多量に含むことが特徴。

第7回霞ヶ浦自然観察会行程図



地図は国土地理院地形図を使用

令和7年度第7回霞ヶ浦自然観察会



清瀧香取神社付近の堤防下から滝下橋を望む



伊奈橋付近の鬼怒川分離地点の板碑を読む



常総市役所に掲示された2015年水害の水位記録碑



小山戸砂丘の見学



若宮戸砂丘の見学



砂沼の見学



新川島橋下の河原での礫の観察



大小さまざまな礫があった